

翻訳にあたってのヒント

その 56

複数扱いか単数扱いか？

英文をよく注意して読むと、主語が複数なのに動詞を単数にして受けている文をよくみかける。そこで今回は、この問題についてちょっと触れてみたいと思う。

まず、この代表的な文例は、「勉強ばかりで遊ぶこともしない子供はだめになってしまう」つまり日本語のことわざでいう「よく遊び、よく学べ」にあたる”All work and no play makes Jack a dull boy.” だろう。

また、次のような複数の年数などといった時間を単数で受ける例もみられる。

Ten years is a long time to stay in a foreign country. 10年というのは外国に滞在する時間としては長い。

これで賢明な読者はだいたい推測できると思うが、英語では二つ以上の語がまとまって一つの概念を表す時は動詞が「単数扱い」になるのである。

しかし次のように複数の年数が経過したことを示す場合には、「複数扱い」とする。

Ten years have passed since we started living in Japan. 我々が日本に住み始めてから10年が経った。

◆ 豆知識：

時間を話題の一部に取り上げたついでに、以下の文例も紹介しておこう。

「(もう) そろそろ～してもいいころだ、そろそろ～する時期(時間)だ、もう(そろそろ)～してもよさそうなものだ」を指す英語の慣用句に“**It is about time ...**” というものがあり、これに続く動詞を現在形にしているような日本人が書いた英文をよくみかけるが、これに続く動詞は過去形とするのが慣用である。

以下文例。

[1] 皆さんが学んでこられたことを実行に移す時期なのです。 **It is about time you started putting what you have learned into practice.** (ただし、「for 人 to do ...」の形を取る場合は、この文は次のようになり、当然ながら動詞は原形となる。 **It is about time for you to start putting what you have learned into practice.**)

[2] **It has been more than a decade since we started our overseas study program for our employees, and it is about time we started re-examining its value.**

[3] **I believe it is about time we seriously considered abandoning the seniority system.**

最後に、[1]の文を、“**It is the time you are about to start ...**”に置き換え可能だということも付記しておこう。

以上これにて第 56 回目完了。